

すまいるカフェだより

～2022年 1月号 VOL.20～ 施設管理課

院内探訪記



A棟1階 正面玄関



院内探訪記第1回は、呉羽総合病院への入口となります、正面玄関をご紹介しますさせていただきます。

現在の正面玄関は、2000年のA棟の竣工に合わせ、現在のB棟業者出入口からその役割を受け継ぎ現在に至っておりますが、2017年秋に現在のレイアウトになるまで、冬季の外気吹込みによる“寒さ”に悩まされておりました。

原因は概要図の通り、風除室の機能に因るもので、風除室は通常、外部自動ドアが閉じてから内部自動ドアが開放することで屋内への外気流入を防ぐわけですが、通行者が多い状態では、外部自動ドアのセンサーが次の通行者を検知するため閉じず、先行者により内部自動ドアは開放を継続。結果、概要図左のような状態となり、外気が屋内に流入し室温の低下を招いていたわけです。

これらを解消するため、当初は屋内に衝立を設置し、自動ドアの開閉速度を速め対処しておりましたが根本改善には至らず、内外からの「寒い」という苦情は減少しませんでした。

このため、更なる自動ドア開閉速度アップや、エアカーテンの設置による対策も検討されましたが、安全上の問題、及び機器の流入風速非対応、電力容量等により、効果が望めないため見送りが続きました。

何か良い案はないものかと思案に暮れていた頃のことです。県北地方の建物のエントランスレイアウトが気に留まりました。正面玄関なのに真っ直ぐ入れない構造。「外側自動ドアから入り左へ進み内側自動ドアへ進む」これがヒントとなり現在の正面玄関の“クランク化”による改善へと結びつきました。寒い地域ならではの工夫の効果は絶大で結果、大幅な苦情減少へと繋がりました。

ビフォーアフターとしては、見た目の変化が乏しいため認識され難いかも知れませんが、室温維持の観点からは、まさに“劇的”な変化（効果）があったというお話しでした。

